

令和 7 年度

第 1 回熊本県糖尿病療養指導士研修会(報告)

主 催 熊本県糖尿病療養指導士会/ノボ ノルディスクファーマ株式会社

日 時 令和 7 年 6 月 29 日 (日) 8 : 55~12 : 40

会 場 名 熊本城ホール 中会議室 B1-3

◇『CKD と透析予防～最新の治療戦略』

講師 : 阿蘇医療センター病院 糖尿病・内分泌・代謝内科

部長 近藤 龍也 氏

成人の 8 人に 1 人が慢性腎臓病でしたが、現在は 5 人に 1 人が慢性腎臓病であり、高齢化が一番の理由でした。医療課題として 1 型も 2 型糖尿病も死亡に関わる数、透析導入に関わる数はどうしても止めることが出来ないそうでした。また、糖尿病と腎臓病は切っても切れない関係であると強調されていました。CKD の定義・診断・重症度分類について説明があり、糖尿病性腎症は eGFR30 から下は進行が早いということでした。腎臓が悪いと心血管イベントが多く、虚血性心疾患、心不全になってくる割合も増えており、2 つある腎臓はそれだけ重要な意味合いがあるとのことでした。CKD においては、eGFR20~15 になると使えない薬剤が増えてくるため、早い段階からの介入が必要になるそうでした。

また、いくつかの薬についてもお話があり、その中で SGLT-2 阻害薬は、腎保護作用は高まるが脂肪や筋肉量も落ちて夜間トイレなどで転倒するリスクも上昇する、特に GLP-1RA との併用により転倒リスクが更に増大するというデータもありました。

最後に、阿蘇医療センターで糖尿病・腎臓病教室を開設されたお話もあり積極的に取り組まれていました。近藤先生は小児 1 型糖尿病の肥後っこスマイルサマーキャンプにも深く関わっておられ大変お世話になっています。多岐にわたり分かりやすくご講義頂きありがとうございました。

◇『糖尿病透析予防指導管理料の概要と実践』

講師 : 医療法人財団聖十時会 西日本病院

糖尿病看護認定看護師 藤本 有紀 氏

西日本病院は、病床数が 525 床あり、現在増築をされており今年中には 695 床に増えて熊大病院に次ぐ病床数になるとのことでした。

糖尿病透析予防指導管理料の歴史から概要、算定要件について詳しくご説明頂きました。

糖尿病性腎重症化予防の支援における 6 つの要素については、1. チーム内の連携・調整 2. 病気と生活行動との関連を説明 3. 具体的な療養行動の相談 4. セルフモニタリング指導 5. 症状管理(症状マネジメント)指導 6. 腎症と向き合うことへの支援についてお話頂きました。また、JADEC のホームページのご紹介もあり、腎機能チェックツールの使用について紹介されました。最後に西日本病院の取り組みについてお話がありました。常勤の医師がおられないため、熊大病院の専門医 2 名が木・金の 2 日間診療にあたられていました。糖尿病透析予防外来は一時中断されていたようですが、今年の 2 月から管理栄養士が 1 名外来配置となったことで再開されたそうです。症例についてもご提示頂き具体的に分かりやすくご講義頂きました。

◇『糖尿病とCKD:透析を防ぐために今できること～療養支援に腎臓の目を～』

講師：医療法人野尻会 熊本泌尿器科病院 看護部

透析看護認定看護師 深山 美香 氏

深山先生は半年前まで熊本医療センターで勤務されておられ、経験談は医療センターにおられた時の内容も含まれていました。CKD 透析予防外来が新設されたことは、日本がかかえる課題を反映していると言われていました。クレアチニンと eGFR の違いについて、クレアチニンは、腎機能がある程度悪くならないと上がってこないが、eGFRは腎機能が低下してくる早い段階から落ちてくるため、早期の腎機能低下では、クレアチニンだけを見ても気づきにくいとのことでした。療養指導では、長期的な eGFR の推移を外来で患者と一緒に書いておられ、腎機能への関心が高まり、生活習慣の見直しへの動機付けや医療者との対話が深まるとお話され、とてもよい取り組みと思いました。また、多職種がどのように関わっているのか具体的な介入が不明のため、多職種で書ける多職種連携・地域連携のためのツールを作成され活用されていました。これにより情報が集約でき、支援の全体像が把握できて患者の生活目標を共有、共通ゴールを目指すことができるようになったそうです。記録を共有することがケアの共有につながって、見える連携につながったとのことでした。地域連携先へも看護師、栄養士からの内容が分かるサマリーも作成と色々な取り組みをされており、ためになるご講義でした。

◇『当院での慢性腎臓病透析予防の取り組み』

講師：医療法人社団 松下会 あけぼのクリニック

主任管理栄養士 北岡 康江 氏

熊本市のCKD対策の背景としては、平成21年度人工透析導入者数は人口比で全国平均の1.47倍と最も高い水準にあり、新規透析導入患者は年間295人であったことを踏まえて「CKDを熊本市民の重要な健康課題」と位置づけ、人工透析の新規導入患者割合を全国平均(実数で200人)まで低減化することを掲げ、平成21年度からCKD対策が開始となりました。

2017年度より「腎臓病療養指導士」制度がスタートし、熊本県では2025年4月迄に看護師17名、薬剤師10名、管理栄養士6名が資格取得し、医療施設及び地域におけるCKD療養指導の担い手として活動されていました。また、腎臓病病態栄養専門管理栄養士は九州では7名が資格取得されているとのことでした。透析予防に対する取り組みとして松下会での活動状況についてもお話があり、腎臓病・糖尿病患者への教育体制が整っており、院内活動では広報活動やCKD啓発、院外活動では健康教室や熊本市健康づくりイベント協力などもされていました。

保存期の食事療法について、低たんぱく質の食事療法は量だけにこだわらず質が大切であり個々の患者に応じて指導することが重要であると説明がありました。今回は腎臓病療養指導士の話を中心にご講義頂きました。

◇グループワーク

研修を受けて自施設に持ち帰って実践したいことや透析予防指導管理料の算定が出来ていない場合は、出来ていない背景、実践の壁になっていること、研修の感想など情報交換の場としてグループで話し合いを行いました。他施設の状況や他職種との関わりなど色々意見交換ができてあっという間に終わりました。大変良かったとの言葉が多かったようです。

ご講演頂きました近藤先生、藤本先生、深山先生、北岡先生ありがとうございました。

講演の前には、オリエンテーションとして熊本県糖尿病療養指導士会 中村むつみ理事長よりお話がありました。

◇研修会終了後、総会が開催されました。

今回は 53 名の参加がありました。
次回は、12 月を予定しております。



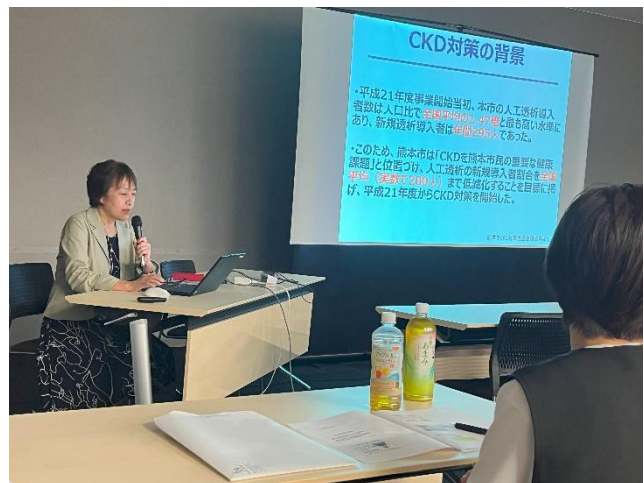
【近藤先生講演の様子】



【藤本先生講演の様子】



【深山先生講演の様子】



【北岡先生講演の様子】